

2010年(平成22)10月

カルメル
霊性センターニュース



terese of lisieux

アビラの聖テレジア

10月

258号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一卷

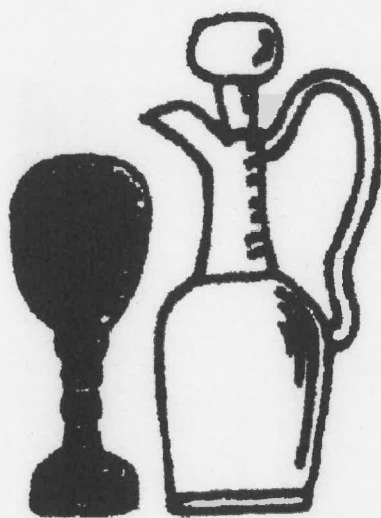
第十九章 よい修道者の修行

1 日々新しく

よい修道者の生活は、すべてに徳がおよんでいなければならない。外部がよく見えるのと同じように、内部もその通りでなければならない。むしろ、内部の完徳のほうが、外部に見える以上にすぐれたものでなければならない。なぜなら、私たちを見て裁くのは神である。実に私たちは、どんなところにおいても神を十分に尊び、神のみ前を天使のように清く歩まなければならない。

私たちは毎日、決心を新たにし、今日を回心の最初の日として奮^{ふる}い立たなければならない。そのためには、次のように言うべきである。「神なる主よ、よい決心において、またあなたへの聖なる奉仕において、私を助けてください。今日までは何一つできませんでしたが、今日からは完徳に向けて真に歩ませてください」と。

心の泉



泉の心



恵みのうちにある力を信じましょう。

わたしたちから来るのではない
わたしの可能性から来るのでもない
この恵みのうちにある活力から来る
聖性への呼びかけを信じましょう。



—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd—

マリー・エウジェンヌ神父は「生き生きとして、また複雑な恵みの成長」をわたしたちは信じなければならぬと強調します。神への道を歩むのは信仰の夜のうちにおいてなのです。神が種を蒔き、神が成長させます。恵みのうちにいのちのダイナミズムの法則が存在し、その恵みは養分を必要とします。この養分とは神ご自身なのです。祈りと秘跡です。

罪と信頼の欠如以外はなにも恵みのダイナミズムを止めることはできません。ときとしてすべてが失われたように思えてもその時こそまさに恵みに信頼する時なのです。

恵みに信頼しましょう。霊的成長には「時」が必要です。(…) 恵みのうちにある力を信じましょう。わたしたちから来るのではない、わたしの可能性から来るのでもないこの恵みのうちにある、活力から来る聖性への呼びかけを信じましょう。*

神よ

わたしはあなたが種を蒔き 水を注いでくださった畑です。
あなたの愛のすばらしさに わたしの目と心を開いてください。
どんな嵐が 押し寄せようとも
わたしのあなたへの信頼を くつがえすことはありません。
聖パウロのように わたしも確信しています・・・
あなたの愛から なにも
わたしを切り離すことはできないと。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』
聖母の騎士社、2009

仏壇

九里 彰

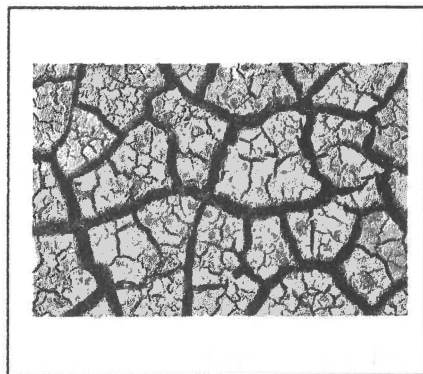
最近気になることの一つに、日本の家庭から仏壇が消え去ってしまったということである。もちろん、一般家庭が仏壇をそなえるようになったのは、近世以降のことかもしれないが、それにしても日本では、仏教の伝統によって、朝晩、死者のために手を合わせることは、ごく普通に行なわれていたのではなからうか。

ところが、この伝統が戦後、急速にすたれてしまった。高度経済成長時代、労働力として地方から多くの青年たちが大都会にやってきた。彼らは社宅かアパートに住む。当然、そこに仏壇などあるわけがない。肉親が死んでも、お墓や仏壇は故郷にあるので、お盆やお彼岸にもどればよいといったところであろう。また都会の青年たちも、両親の家に同居することを嫌い、狭いアパートとか小さな家に独立して住むようになった。大家族主義は封建的で、欧米より遅れているといったムードがあった。「核家族化」とか「マイホーム主義」とかいう言葉が新しい時代を象徴しているかのように喧伝された。実際、多くの新婚家庭には、仏壇を作る余裕など、経済的にもスペースとしてもなかつただろう。いずれにせよ、日本の多くの家庭から仏壇がなくなった。

すべてを仏壇に還元するつもりはないが（私は仏壇屋の宣伝係ではない。何ももらっていない！）、仏壇がなくなることで、日本人の心の空洞化がさらに推し進められたようにも思われる。かつての日本の家庭では、食前に仏様にご飯を供え、食卓の食べ物に合掌することは当然のごとく行なわれていた。善きにつけ悪しきにつけ、何かがあると線香をあげ、鐘を鳴らし、仏様にそのことを報告していた。生活の中心に仏壇があり、それによって亡くなった人々と、またこの世を超えた世界と絶えずつながっていたように思う。

仏壇がなくなることで、目に見える世界がすべてとなった。何者かに感謝し、手を合わせることもなくなった。人間を超える力に対する畏怖の念は消え、生老病死の現実には現世の華やかさの前に忘れ去られ、宗教的センス、宗教的情操は日本人の日常生活から見失われていった。物質的経済的に豊かになることのみが幸せと見なされ、自分の楽しみだけを求める利己的な個人主義が社会的風潮となっていった。家庭崩壊、モラルの崩壊、凶悪犯罪の増加などは、人間世界だけになってしまった現代社会の浅薄さから、また人の思いだけでこの世を操作してゆこうとする人間の傲慢から来ているのではなからうか。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (136)



靈的無味乾燥

時々、私たちは靈的生活においてひどい無味乾燥を体験します。祈る望みも感ぜず、神の現存も体験せず、礼拝の奉仕にうんざりし、神とイエスと聖靈について信じていたすべてのことが子供時代のおとぎ話にすぎないとさえ思えるのです。

その時、これらの感情や思いのほとんどが単なる感情や思いにすぎず、神の靈は私たちの感情や思いをはるかに超えたところにおられると悟ることは、とても重要なことです。私たちの感情や思いの中で神の現存を体験できることは大きなお恵みではありますが、そうでないからといって、それは神がいないことを意味してはいないのです。むしろそれは、しばしば、神がより大きな忠実さへと私たちを呼ばれていることを意味しているのです。その時、私たちはまさに靈的鍛錬にしっかり耐えなくてはならない靈的無味乾燥の中にいるのです。それに耐えることによって、私たちは神との親しさの新しい段階へと成長することができるのです。(0729)

鍛錬を求める選択

私たちの頭や心を満たす多くの思いや感情を批判的に眺めるならば、私たちは、しばしば命の代わりに死を、祝福の代わりに呪いを選んで見出し、ぞっとするかもしれません。嫉妬や羨望や怒りや恨みや食欲や情欲や執念深さや復讐心や憎しみなど… これらはみな、私たちの内的生活のあの大きな貯水池へと流れ込みます。しばしば私たちは、それらの思いや感情を当然のことと思い、それらがそこに居座り、破壊的な働きをするのを許しています。

けれども神は、私たちに命を選ぶことを、また祝福を選ぶことを求めているのです。この選択は、途方もない内的な鍛錬を要求します。それは、私たちの内に働いている死の力にしっかりと注意を向け、命の力が私たちの思いや感情をすっかり支配するように努めることを求めています。このようなことを、私たちはいつも自分一人の力で行なうことはできません。たいてい私たちは、配慮に満ちた導きや自分たちを支えてくれる優しい共同体を必要としているのです。けれども、私たちが内的努力をすることと、命を選ぶことを助けてくれる他者からの支えを求めることは、共に重要なのです。

(0831)

(九里 彰訳)

年間第27主日 (C)

信仰と忠実の炎を燃え立たせなさい。 (ルカ 17:5-10)

今日の福音で、イエスは弟子たちにくつかりの難しい真理を教えておられます。すると彼らは叫びます、“わたしどもの信仰を増してください！”と。世の中で最も大きな力である信仰を表す喩えとして、イエスは 桑の木を動かすほどの力を秘めた、小さなからし種を用いられました。単なる自然界においてさえ、不可能と思われることが、必ず出来るという確信をもって近づけば、可能になります。その例はたくさんあります。電球、航空機、宇宙旅行、医学の驚異、テレビジョン、コンピューター、や携帯電話の発明などはその一部です。超自然の世界においては、信仰が、一見不可能に思われますが、この世を救うための唯一の力です。福音の他の部分 (ルカ 17:7-10) では、弟子たちに神に奉仕をするときの謙虚さについて教えておられます。イエスは仰います。神からいただいた報酬について決して不平を言うてはならない、信仰の与え主である主に対しての私たちの最大の感謝は謙虚に仕え働くことであると。

信仰は自分で得られるものではなく、絶え間なく吹きこまれ、与えられるものです。このことが今日の主日の第二朗読のメッセイジです。聖パウロは、臆病で弱いテモテに神が与えてくださった信仰の炎を燃え立たせるように忠告します。テモテは若者です、異端や多くの危険の中、生き生きした信仰と勇気をいつもしっかり保たねばなりません。テモテにはハバククの預言のメッセイジの解釈が与えられています。“よき知らせのために困難に耐えよ、神の力に依り頼んで。努力して強くあれ、困難を切り抜ける力を得るために。”

ハバクク、聖パウロ、テモテそして弟子たちへの神のメッセイジは私たちにとっても、いつの世の人々にとっても重要です。信仰は、日々私たちが出会う苦しみ、悲しみ、心身の激しい苦痛などの神秘を垣間見るためのたった一つの鍵です。神からいただく信仰は神を畏れ敬う心で大胆に振る舞うことを可能にします。私たちは、大胆な心を与える神を信じ、与えられた使命を果たすことによって、神のために素晴らしいことが出来ると信じています。

使徒たちが“わたしどもの信仰を増してください”と願ったのは理にかなった、もっともなことです。なぜなら、私たちが苦しみや悲しみの谷の上高く飛翔できるのは、私たちが神を信じていること、神の愛を、神の誠実さを、その憐れみを、その赦しと愛に満ちた優しさを信じ、全てをご存じで、悪から善をもたらすことの出来るお方である神を信じていることに依るのです。信仰の炎を燃え立たせる方法の一つは、神の言葉を聴き、それを私たちの心に深く沁み通らせることです。

(Sr. Paulina)

「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」(17, 19)。

「あなたの信仰があなたを救った」、この言葉は、「ルカの福音書」において、イエスが人間と出会い、その出会いが、イエスが期待されているような形で成就したときに、よく口にされているものです(参照 17, 50; 8, 48; 17, 19)。その典型的なものが、今日の福音のらい病を患っている十人の人たち、そのうち一人はサマリアの人であったのですが、彼らの癒しの出来事でしょう。ユダヤ人たちとサマリア人たち、彼らは、通常は反目しあい一つのグループを作ることはないのですが、らい病という限界状況の中で一つにならざるをえなかったのでしょうか。いずれにせよ、その一つであることは、簡単に壊れるものです。らい病を癒された、この恵みによっても、彼らは、またもとの二つの群れに分裂するのでしょうか。ユダヤ人たちは、癒された体を見せるためにユダヤ人の祭司のところに行くはずですし、サマリア人は、サマリアの聖所、司祭のところに行くのです。病が一つにしたものを、癒しが、また、ばらばらにするとする、皮肉なことになるのでしょうか。

しかし、サマリア人は、サマリアの祭司のところに行こうとした、その途上で癒されたことに気づき、イエスのところに、ユダヤ人である方のところに、戻ってきた。「そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した」(17, 16)。これは、イエスを神と特別な関係にある方と認める行動と言えます。このような行動をサマリア人が取った、これは、注目に値します。このサマリア人は、ユダヤ人サマリア人を隔てを超えた、イエスの到来によって始められる新しい神との出会いに、イエスによる新しい契約の中に、一歩足を踏み入れようとしているのです。ユダヤ人たちは、旧来の律法を遵守し、モーセの律法による清さを宣言してもらうために、旧来の司祭のもとに赴き、また、旧来の群衆の社会生活の構成員の中に受け入れられていった。イエスの方に方向転換することはありませんでした。このイエスの新しさを無視しているのです。さて、サマリア人は、「大声で神を賛美しながら戻ってきた」。この「戻る」は、ヘブライ語の^{שׁוּב}、神に立ち戻る、改心を示唆している言葉でもあります。ユダヤ人にとっても、サマリア人にとっても、そして、すべての人にとって、改心して戻るべきは、イエスの行動と言葉、その十字架の死と復活によってご自分を現される神のもとにです。この改心をした人に、「あなたの信仰があなたを救った」と、イエスは言われました。ルカ 渡辺幹夫

年間第 29 主日 (C)

“根気強さ” 特に祈りにおいて

(ルカ 18:1-8)

主が今日私たちに響かせて下さるのは“根気強さ”です。夏の間、蠅や蜂などの虫たちは根気よく一生懸命に働いています。私たちは迷惑に思います。小さな子供たちは、欲しい物があると、執拗にせがみます。私たちはどうしようもないと顔をしかめます。政治家は選挙民をあらゆる手段で追いかけ、商社マンは売上の見込みを探り続けます。今日の典礼は、この“根気強さ”を神とのかかわりの中で眺めています。特別に何かを強く願い求めるとき、根気よく祈ることが大切です。

福音で、主は不正な裁判官と孤独のやもめの喩え話をなさいます。裁判官は典型的な有力者ですが、やもめは典型的な弱い立場の人です。でもやもめには強い信仰があります。この裁判官の気持ちを動かしたのは、やもめの“根気強さ”であるとイエスは力説なさいます。そして、もしやもめが不正な裁判ではなく、初めから正しい裁判を受けていたなら、貧しい人々の心は、完全な正義である神の前でどれほど豊かなものになるであろうかと。

この喩えの中で、裁判官の不正に対してやもめが持っていた、ただ一つの武器は“根気強さ”です。これは私たち誰もが持つべき徳です。こんな話があります。およそ 200 年前のイリノイ州でのこと。一人の青年が六カ月間の学校教育を受け、立法府の採用試験を受けましたが、失敗しました。次に商売を試みますが、それも失敗し、その後 17 年間役立たずの仲間の負債を支払わねばなりませんでした。素敵な女性と出会い婚約しましたが、亡くなってしまいました。彼は心底打ちのめされてしまいます。やがて国会議員に立候補し敗れ、副大統領選に敗れ、その 2 年後には上院議員の選挙に敗れます。それでも彼はもう一度官職に立候補し、ついに選ばれたのでした。その人の名はアブラハム リンカーンです。

今日の第一朗読も、福音の根気強くあるべきことへの促しと関連を持っています。エジプトから解放されたヘブライ人の最初の戦い—イスラエルとアマレクの戦い—において、モーセが手を上げて祈っているとイスラエルは優勢になり、モーセが疲れて手を下すと旗色が悪くなります。そこでモーセの助け手であるアロンとフルは勝利が確実になるまでモーセの疲れた手を支え、上げ続けました。そこで、イスラエルの勝利は確実になります。

今から、日々の生活の人と人との関係、家族、信仰、仕事、祈りなど“根気強さ”を必要とする処で根気強くある決心をしましょう。しかしその成果は、神に委ね信頼のうちに待ちましょう、“私の意のままではなく、神のみ旨が行われますように！”と。

(Sr. Paulina)

年間第三十主日 肋 18, 9-14

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」(肋 18, 14)。

わたしたち日本人にとって、「へりくだって」は、謙譲の美德として古くから尊重されてきています。しかし、イエスのお口の中で発せされたこの単語の意味を把握するために思い起こすべきものは、フィリピ書の言葉です。「キリストは神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリ° 2, 6-8)。イエスは、これほどまでにへりくだった、しかし、このへりくだりの動機は、高められる、復活させられることを期待してではなかったようです。むしろ、へりくだること、それだけで終わっていたとしても、イエスは、御父の御旨への従順を生き切ったこと、それで満足でしたでしょう。イエスの十字架の死を御父がどのように報われるか、イエスは、その確証を得ようとはしていません、ただ、従順に御父にご自分のすべてを、将来を、命をゆだねきっています。「『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた」(肋 23, 46)。「息を引き取った」、直訳すれば、「息を吐き出しきった、そして、空になった」となります。自分の望みも、期待も、目論みも、自分には何も残さずに、空になった、と言った意味です。御父に向かってだけではなく、実は、イエスは、すべての人間、罪人に向かって、空になっています。イエスは、罪人の人間たちと連帯しています。そして、ご自分の死を、人間たちがどう評価し、扱おうとも、十字架の上からは降りてきません。キリストのへりくだりが、このようなものであったからこそ、「このため、神はキリスト高く揚げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました」(フィリ° 2, 9)。

イエスのへりくだりの真実な深さ、これは、わたしたち、罪の汚染の中に生きる罪人には、到底、把握不可能なものです。罪とは、実に、わたしたちをへりくだりを把握する能力がないものにしてしているのです。へりくだりを前にして反発や嫌悪の情を刺激され、回避するために巧緻を尽くし、全力で逃げ出そうとする、これが罪の勢力です。この罪の支配からわたしたちを解放するために、イエスは、来たのです。わたしたちが、イエスのもたらす救いのうちに歩み入れられているしるしは、イエスのへりくだりを理解し、そのイエスの後を歩もうとする望みなのではないでしょうか。ルカ 渡辺幹夫

年間第31主日（C）

「救いは誰のために訪れるのか？」（ルカ 19・1～10）

神は創造主であり、宇宙にあるその他の全てのものは造られたものです。造られたものは滅び、限りがあります。これは私たちが受け入れなければならないことですが、私たちに対する神の摂理のご計画を無視してはなりません。

ザアカイは「背が低い」（福音書）人でした。これは彼の体格の表現ではなく、不当な税を無理に取り立てるといった精神的低さを象徴しています。ですから、私たちは「人間の低さは神が造った状態ではなく、人間が造った条件である」ということを認めなければなりません。

低さは人間の造ったもので、治さすことができます。ザアカイは自分の低さを乗り越えることができると信じました。このように信じることは成長への最初のステップです。低さはより大きな努力を促します。歩いているお父さんに追いつくために走らなければならない子どものようです。ザアカイのより大きな努力は、彼が木に登ることや、「大人」の群衆の中でためらわず愚かで「子ども」みたくに見えることで描かれています。彼の限られた能力は、最善のものを差し出すことを妨げませんでした。イエスを引き付け、止まり、いっしょに食事をするようになったのはザアカイのこの態度でした。神はザアカイの低さにおいて彼の力を明らかにされました。

私たちは人生の中でイエスと出会う道が閉ざされているように感じる状況があるかもしれませぬ。いいえ、そんなことはありません！ 一つの道は閉ざされているようにみえるとき、開かれた10以上の道があります。閉ざされている一つを嘆くのではなく、開かれている道を探しましょう。

神は誰も無視されませぬ、全ての人をご覧になっています、全ての人の近くにいらっしゃいます。私たちは自分の罪深さのために神から遠く離れているように感じるのです。実際、私たちは神の目から隠れることはできません、神に聞かれたり、見られたりするのために、どこかに行く必要はありません。多分ザアカイはイエスがエリコへの道を歩いていかれる途上、木を見上げられるとは思っていませんでした。しかし思いがけないことが起こりました。イエスはそこに到達されると、「ザアカイ、急いでおりなさい。きょう、わたしは、あなたの家に泊まりたいのだ」とおっしゃいました。主が私たちに望まれることは、主ご自身を快く受諾することです。イエスは私たちの人生の中で彼の道を強いられることはありません、しかし彼はいつも私たちの心の扉を叩いていらっしゃいます、私たちが扉を開けば、彼は中に入ってお泊りになります。イエスが私たちのところにお泊りになることは、一生続くイエスとのロマンスの始まりであり、キリストとの一致の生活の始まりです。

驚くべきことは、ザアカイが積極的に応えたばかりでなく、即座に喜んで行ったことです。結果は大きなものです。それは彼の人生を変えました。彼の回心は善への転向でした。より大きい又はより小さい程度で、私たちは皆この種の回心を必要としています。私たちが自分の心を変えれば、私たちは自分の人生も変えるでしょう。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (40)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

人のためとなる存在 (2)

(アロンソ神父の証言の続き)

(ヨハネ神父は) 彼らが仕事の中で行なっていることを、単に利益のためではなく、神のために行ない、それらを神に捧げることによって、いかに神に喜ばれるかということについて教えを説いていました。いずれにせよ、彼らはその教えに従わねばならなくなり、どれほど注意深く彼らが自分たちに言われたことを思いめぐらし、実践しようとして耳を傾けていたかは驚くばかりでした。

それは、まるで第二ヴァチカン公会議から靈感を受けた考えのようでもあります。すなわち、各人は自分の仕事や職務を通して聖化されるという考えです。

ラバにエサをやるためにラバ飼いが休みを取ると、聖人がどのようにこの機会を利用して人々と交わっていたかについて、十字架のヘロニモ神父が語ることにしましょう。それによれば、人々はすでにヨハネ修士の聖性を垣間見、その匂いを嗅ぎつけ始めていたのです。彼がアヴィラで捕えられた時、トレドへ連れて行かれていく途中、彼の穏やかさと温和さが、またその聖性が、いかにラバ飼いの注意を引いたかを思い出すことができるでしょう。一行は一晩中、宿屋にとどまらねばなりませんでした。小さな修道士の聖性を確信したラバ飼いと宿屋の主人は、彼を引き立てていた修道士たちがぐっすり寝ている間、逃亡の手引きを申し出ました。これを聞いて、ヨハネ修士は「喜びましたが、それを望みませんでした。彼は彼らに、自分が私たちの主を絶えずお喜ばせたいと望んでおり、このことによって、主はかならず自分の靈魂に多くの憐れみをかけてくださるであろうことを固く信じていると言いました」。

9ヶ月の牢獄生活の後、彼はひとりで、だれにも迷惑をかけずにそこから逃げ出しました。とはいえ、牢番の聖マリアのヨハネ修士は、「数日間、発言することが禁止され、牢番の仕事が剥奪されました」が。

もっとエピソードを？ 宿屋や居酒屋の旅を終わった後、以前のようなスタイルにもどることにしましょう。

(続く)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) — その8

エディット・シュタインは、1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフッサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアビラの聖テレジアの『自叙伝』を一晩で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということを、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが——彼女は、姉妹たちを危険に陥れたくなかったのである——、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉献し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気を入々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。



十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

—— 祈り ——

主よ、波は激しく、海は荒れ、
暗闇に覆われています、夜の深い闇に。
あなたにこい願います、どうか、光をお与えください、
眠ることのできない、この孤独な夜に。

震えることのない腕で、あなたの船の舵を切りなさい。
私に信頼し、あなたの靈魂を静めなさい。
私は、あなたの小さな船を、悪から守ろう。
私が目的地にまで導こう。

羅針盤を手に、目的地を
しっかりとみつめなさい。
嵐の夜、あなたは深い闇を渡るであろう。
羅針盤は、あなたが正しく舵を切るように助けるであろう。

針はかすかに震えるが、
その後、安定して、正しい方向を示してくれる。
神である私が、あなたの航海を導くとき、
それは、あなたの道を指し示し、あなたを導く。

だから、しっかりしなさい。落ち着いて、真実であるようにしなさい。
あなたの神が、あなたのそばにいる。
嵐の夜の間中、あなたの神は、あなたを見守っている、
必ず、あなたの道を示すために。

(詩「舵を取って」)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(I 列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会歌・編)

木の葉 (桐生にて)

風前の灯火 (ともしび) のように、枝にしがみついている枯れ葉。かつては
厳然と枝についていたのでしょうか……寿命を経てか、木々の小枝を吹き抜ける
風に身をまかせて、ユーラリ、ユーラリ枝にとりついて揺れています。時々
黄赤く変身した葉が、ハラハラと人の通らない山の林に落ちてゆきます。誰も
見ていません。たまに歩く人とか犬が、その葉の過去の歴史などまるで知らない
ままに、踏みつぶしてしまうことなのでしょう。ハーラハラ、ハーラハラ。あ
たりかまわず葉は落ちていきます。誰も知りません。

もっと寒くなった11月の始め、数人の若者が 籠を背負って枯れ葉を集めに
にきました。冬の燃料にするとか…… 山歩きの人に踏まれた枯れ葉は、こ
の時こそ、その筋の人から愛されました。冬の燃料として、また銭湯のお湯涌
かしの燃料として、大切な存在となったのです。こう思考の転換が出来る
ようになってから、この老木は、葉が舞って落ち、道を蔽ってしまうことに何
の気兼ねもせず、かえって老木としての生き甲斐を感じて、ピンと背伸びをし
ました。……

私はいつの間にか、この景色を自分の人生に重ねて見ていました。若い頃
には、青い葉を繁らせて、人の心の休み場として日陰をつくっていた充実感。そ
れが今では、“あまり役に立たない無用の長物” と思っていたことにハッと気
がつきました。木は改めて思いました。“いいじゃないか。今度こそ燃料とし
て焼いて使ってもらい、冬の寒さに震える人々に、暖を提供できれば……

このように思考の転換が出来るようになってから、この老木は、枯れ葉が舞
って落ち、道を覆ってしまうことに何の気がねもせず、かえって老木としての
生き甲斐を感じてピンと背伸びをしました。そのことは、また違った意味で力
が湧いてくるようでした。

こうして、ハラハラと地面に落葉のジュウタンが出来ました。自分の体はま
すます素裸かになっていくのに、この老木、以前とは違って“毎日生きる喜び、
落葉として人々にも喜んでもらえる”、その喜びを神様から頂いたのです。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊出 照子

サンデー毎日

サンデー毎日 といっても、ここでは新聞の名前ではありません。それは今年の4月からの私の毎日の生活スタイルが、そのようになった ということです。

というのは、私の仕事も世間一般の勤めで言うなら、定年退職ということでしょうか。

(いえ、実際定年以上に勤めさせていただいたのですが)

私も人なみに、今年の3月で、長年週2日通い続けた、町田市つくし野の天使幼稚園の母親7クラス(宗教とか、人間の生き方についての心理学的クラス)を全部閉じさせていただいたのです。

通園中は、授業の準備や往復の通勤に費やす約3時間の時間、あるいは個人の相談相手など、種々の面で能力を使わせていただいたことは確かでした。そんな生活が、かれこれ20年も続いた後の引退ということですので、歳は重ねたものの、幸い現在健康を頂いている私は、まさに“神に感謝”という折りが、心の底から押し上がってくるのを感じさせていただけるこの頃なのです。

では、“人”をもたなくなった、そして通勤者のように電車・バスに乗らなくなった私は、“今何をしているのでしょうか”と改めて思うことが時々あります。勤め人的な時間の制約内での行動はさすがになくなったとはいえ、修道生活としての時間内の生活は当然あるワケです。そして〇〇の当番とか、〇〇の係りとか…… 舞台は変わったとはいえ、私は本来家事をすることも嫌いではないので、今までとは違った畑で“勤けるまで働くことができるように”と願って仕事をしています。

そんなわけで授業のような仕事はなくなり ある意味では脱落感もなきにしもあらずですが、ある意味では家庭人として今日まで他のシスターに補っていただいたことを、逆に補ってあげられたらいいな と思い、“縁の下の力持ちでもいいから、と考えると、そのように努めている現在です。

理屈を人前で言うことも沢山してきた私ですが、人生の後半、家の中で私に出来ることで、他の人の助けになることなら、比較的時間の出てきた毎日を有意義に使うことが出来れば、と思っているこの頃です。

お告げのフランシスコ姉妹会

S r. 熊田 照子

二年余りを海外に居住する高校一年の孫が、この夏、一人で夏休み帰国をしました。外地で地元の学校へ入学したために、英語で授業を受けるというチンプンカンプンの苦労は大変なものだったようですが、勿論現在もチンプンカンプンには変わらないものの、久しぶりに顔を合わせてみれば、私の目には何か「外人」の雰囲気を感じさせびっくりしました。

実は、この孫との或る出来事が、私にはひとつの大きな問いかけとなって今も心に残っているのですが、そのことが自ずと思い出されました。

彼が二歳の時に下に弟が生まれました。それで、お祝いに家を訪ねたときのこと、私が玄関に入るや否や上り口に仁王立ちになって、思いつめた瞳をきりりとみひらいて、「おばあちゃん おばあちゃんは誰のおばあちゃん？」と質すのです。きけば同じように母親にも「ママは誰のママ？」としきりに問いただしていたとか・・・。

そういえば、もう一人の孫も同じで、やはり二歳のとき弟が生まれたのですが、「病院の赤ちゃんは病院へ返せ！」と憤懣やるかたない様相で叫んでいてこちらの方が悲しくなったことでした。新しい赤ちゃんに会いに皆で病院へ行った時、彼も一緒だったのです。

私の長男も例外ではなく、下に兄弟ができたことは相当な情緒不安定であったようです。

何やらえたいが知れない突然の闖入者に「ボクの」ママやらおばあちゃんやらが、新しい赤ちゃんに寄ってたかって嬉しそうにしていることは、「ボクには」大きな不安であり、不可解であり、不満であり、自分の世界が崩れるようで、どうしようもなかったのでしょう。今になればどの孫たちもそんなことは全部忘れて、仲良し兄弟におさまっているのですが。

しかし、私の方は今もってわからないのです。「誰のおばあちゃん？」と訊かれて本当にはどう答えてよいのかを。

「みんなのおばあちゃんよ」「どの子もみんな同じよ」「〇〇ちゃんのおばあちゃん △△ちゃんのおばあちゃんよ」 いずれも私の本当の答えにはなり得ません。

私には六人の孫がいますが実は六人とも「世界一」なのです。世界にたった

一人のかけがえのない存在だという意味とは少し違います。一位タイというのでもなく六人共に「世界で一番愛してる！」なのですが・・・。

若い時、友人の結婚式に招かれお祝いのスピーチでこんなことを述べました。「私は先月結婚しました。私の夫は世界一と思っていたのですが、今日ここへ来たら世界一のご主人様がいらっしゃいました」 だからといって、私の夫が二番になったのではないのです。この辺りのこと、私自身のことであるにもかかわらず心の奥の奥のもっと奥の、あまりの深さに自分では届くことが叶わないのです。そこに答えがあるかもしれないのに。

つくづく思う事ですが、あれでなくこれを、これでなくあれを、という厳しく悲しいことから私たちは決して逃げられないのです。

一枚の写真を撮るとき、アングルが決まるということはそこに入らない全てを捨てることなのだという主旨の、或るカメラマンの言葉に感動したことがあります。これを採るためには必ず捨てられるものがあるのです。

私たちの人生は、さまざまな条件の取捨選択で織りなされているはずで、そして同時に私たちは、条件を問わずに愛することもどこかで経験しています。

山に残された九十九匹も、迷い出た一匹も、双方全部百匹が同時に等しく心から首肯することがもしできるとしたら、そこには一体何があるのでしょうか。

もし、私がいつも「死ぬこと」ができるのなら孫は「誰のおばあちゃん？」とは質さずに済んだでしょうか。或いは如何なる答えでも安堵したでしょうか。

私はイエズスに向かって「主イエズス あなたは誰の花婿さま？」とは一度も訊ねたことはありません。何故なら訊ねなくていいからです。いつも一緒に深い安心に常に包まれているからです。それは不思議なことですが私だけの花婿さまなのに、世界中が深い安心に包まれているのです。

絶対 相対 無条件 条件 ……今、深い悲しみと深いよろこびがないまぜになって、私を襲い、私は泣きそうになっています。無力です。

たくましく成長した「外人風」の孫をしみじみと見やり、「お風呂に入っているよ」「明日起こすの何時？」と私（ボクのおばあちゃん）は声をかけます。

いのちの言葉 9月

七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

(マタイ18・22)

素晴らしい教えを説いてくださったイエスに向かって、ペトロは次のような質問を投げかけました。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか」と。

これに対して、イエスはお答えになりました。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」

善良で寛大なペトロのことです。イエスの説教に励まされて、「人を七回も赦す」という並外れた行為を果たしながら、自分も新たな生き方を始めようと思い立ったのでしょう。

ところがイエスは、「七の七十倍までも」と言われ、赦すことに限界を置いてはいけなことを教えてくださいます。私たちはいつも赦す必要があるのです。

七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

この言葉は、旧約の一つの言葉を思い起こさせます。アダムの子孫であるレメクが「カインのための復讐が七倍なら、レメクのためには七十七倍」(*1)と語る箇所です。こうして世の中では、どんどん流れを増す川のように、人々の間に憎しみが広がっていきました。

このように広がる悪に対して、イエスは、「赦し」をもって対抗されます。限りのない無条件の赦し、暴力が暴力を生む悪循環を断ち切ることのできる赦しです。

赦しこそ、悪から生まれる混乱を食い止め、人類の未来を自滅から救うための、唯一の解決策だと言えるでしょう。

七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

赦すこと。どんな時にも赦すこと。赦すとは、現実を直視したくないために、それを忘れようとすることではありません。また、自分に害を与えた人の強さを恐れ、されたことを気にかけないようにする、という弱々しい姿勢とも違います。赦しは、受けた害の重大さをよくわきまえていないことでもなければ、悪を善と取り違えることでもありません。無関心とも異なるものです。

赦しとは、意志の力によって生まれる行為、状況をしっかりと把握しながらも、自由な心で果たす行為です。自分を傷つけた兄弟姉妹を、ありのままの姿で受け入れることなのです。神様が、私たちの欠点にもかかわらず、罪人である私たちを迎え入れてくださるのと同じです。赦しとは、受けた悪に対して、悪をもって答えることではありません。「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」(*2)と聖パウロが言っているように、生きることです。

赦しとは、自分に悪を行う人に、新しい関係を築くための可能性を与えることです。それは、あなたにとっても相手にとっても、悪に支配されない生活に向かって再出発するためのチャンスとなります。

七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

では、このみ言葉を生きるには、どうすればいいでしょうか。

ペトロは「兄弟を何回赦すべきでしょうか」

とイエスに尋ねています。「兄弟を」という質問に答えておられるのですから、イエスは特に、キリスト者の間や、同じ共同体のメンバー同士で、赦し合うことを望んでおられたのが分かります。

ですから私たちは、誰よりもまず、信仰を同じくする兄弟姉妹に対して、また家庭や職場、学校や共同体の中で、「赦し」を生きることが求められるでしょう。

私たちは、人からいやなことをされると、自分も何かの行いや言葉でやり返したい、と思ってしまうことがよくあります。また、「性格が違うから、いらいらしていたから」などの理由で、一緒に生活する人の間で、愛が足りなくなることよく起こります。しかしそのような時も、いつも赦すことによってのみ、兄弟との間に平和と一致を保つことができることを思い出しましょう。

私たちは、つい兄弟姉妹の欠点に目がいってしまったり、彼らの以前の行いを思い出したり、彼らが変わってほしいと望んだりします。そこで、新しい目で兄弟を見ること、彼らを新しい人として見る習慣をつけることが大切です。たとえ相手が心を改めなくても、私たちの側はいつもすぐに、相手を心底受け入れることです。

「それは難しいことですよ」と言う人もあるでしょう。確かにそうです。しかし、ここにこそキリスト教の素晴らしさがあります。私たちはキリストに従う者ですが、このキリストこそ、ご自分を死に追いやった人々を赦すよう、御父に願われ、復活されたのではないのでしょうか。

勇気を出して、このような生き方を始めてみましょう。今まで味わったことのない平和と大きな喜びを、私たちは経験することができるでしょう。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、1999年9月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

* 1 創世記四・二十四

* 2 ローマの信徒への手紙十二・二十一

新刊紹介



●イエスの聖テレサ—霊的な人々の母（新刊）

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究家である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円（税込み）

著者：トマス・アルバレス

訳者：松田浩一 神父（カルメル修道会司祭）

判型：B6 判並製

ページ数：188 ページ

ISBN：978-4-8056-0473-1

発行：サンパウロ

カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター '10年10月~'11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2010年 (毎回 金曜日 夕食~土曜日16時)

④ 11月12日~13日

①、②、③ 終了致しました。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2010年

D 11月 2日(火) 夕食~11月11日(木) 朝 福田正範神父

E 12月27日(土) 夕食~ 1月 5日(水) 朝 中川博道神父

A、B、C 終了致しました。

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

2010年間共通テーマ 《道》

11月18日 神の国への道 ベルナルド神父

1月20日 荒野をゆく道 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日 10時~16時)

2010年度

10月29日 アビラの聖テレジア ベルナルド神父

12月17日 リシューの聖テレジア 今泉 健神父

2011年 2月25日 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

5. 青年黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

11月20日(土) 16時 ~ 23日(火) 14時

6. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

10月9日(土) 16時 ~ 11日(月) 16時

7. 祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・ ・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2010 12月24日(金) ~ 25日(土) 《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子NDV テーマ:「私は神を見たい」

10月15日(金) 20時 ~ 17日(日) 16時
(15日は夕食を済ませてご参加ください)

9. 待降節黙想会

2010/12月 3日(金) 夕食なし ~ 5日(日) 昼まで 指導:カルメル会士



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2010年11月11日（金）18時～13日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

一日黙想会



金曜黙想会・・・カルメルの聖人

アビラの聖テレジア

10月29日(金) 10:00~16:00



木曜黙想会・・・神の国への道

11月18日(木) 10:00~16:00

指導：ベルナルド師 (カルメル会司祭)



ベルナルド神父

- * お問い合わせ：TEL. 03-5706-7355
- * お申込み：FAX、Eメール、または、はがきにてお申込み下さい。
FAX. 03-3704-1764
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

アビラの聖テレサの祝日に始まる
特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2010年10月15日(金) 20時～17日(日) 15時

アビラの聖テレサ、リジュのテレーズ、コルカタのマザー・テレサ、
三人のテレジアになって「神への渇きと人びとへの渇き」をリセット!



何ことも あなたを乱すことなく
何ごとも おそれてはならない
すべては 過ぎ去る
神のみ かわらない

— アビラのテレサ —



神の慈しみへの
果てしない望みは
わたしの宝です

— リジュのテレーズ —

地上の闇のうちにいる人々に
灯をともしために
天国から
絶えず抜け出すことでしょう

— マザー・テレサ —



- 指導：伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 持参品：新約聖書 『テレーズを愛した人々』(黙想の家でも購入できます)
筆記用具、バジヤマ
- 参加費： ¥12000
- 場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想の家)
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel. 03-5706-7355
- 申し込み方法 ハガキまたは、FAX.03-3704-1764



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年～2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

2010年	11月9日	11月12日
2011年	2月22日	2月25日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

担当：中川 博道（カルメル修道会）

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年～2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）

夜のクラス（金曜日）

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

2010年 12月 7日	12月 10日
2011年 3月 15日	3月 18日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>



「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—
対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
7	2010年 9月17日	「人間の問題性からの脱出」 聖書のライトモチーフとしての「脱出」というテーマ	出エジプト記 1章~3章
8	10月8日	「人間の問題性に関わる神の本質」 神の名前	出エジプト記 3章 14節をめぐって
9	10月22日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ 1章 35節~42節
10	11月5日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを愛において生きるキリスト	
11	11月19日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスが伝えたいもの	マルコ 10章 45節
12	12月3日	「キリストに近づく」 —洗礼と永遠の命—	ヨハネ 3章 1節~21節
13	12月17日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ 1章 26節~38節
14	2011年 1月7日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) 教会共同体の原型としてのエリザベトとの出会い	ルカ 1章 39節~56節
15	1月21日	「キリストと共に生きる道」(1) 荒野に生きる道を探して	出エジプト記 20章 申命記 5章
16	2月4日	「キリストと共に生きる道」(2) 現代における生き方の模索	マタイ 6章 12節
17	2月18日	「キリストと共に生きる道」(3) 十戒の意味を探して	
18	3月11日	「主の祈り」 主と共に生きる道	マタイ 6章 5節~15節
19	3月25日	「キリスト者の基盤」	使徒言行録 2章 42節
20	4月15日	「秘跡」 生きるキリストに伴われて歩む	

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

'10年10月～'10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

1. 聖書深読

一日(午前10時から午後4時)

10月30日(土)

九里 彰神父

12月11日(土)

新井延和神父

2. 一般のための黙想

一泊二日(午後5時～午後4時)

11月20日(土)～21日(日) 神の国が始まる

新井延和神父

3. 水曜黙想(午前10時～午後4時)

10月13日(水) アピラの聖テレサ

アロイジオ神父

11月10日(水) 三位一体のエリザベット

伊従信子師

12月15日(水) 御言葉は人となった

九里 彰神父

4. 待降節黙想(午後5時～午後4時)

12月 4日(土)～12月 5日(日)

渡辺幹夫神父

5. 奉獻生活者の黙想(午後5時～午前9時)

10月12日(火)～10月21日(木)

九里 彰神父

12月27日(月)～ 1月 5日(水)

新井延和神父

6. 青年のための黙想(午後4時～午後5時) 男女性のため

11月 6日(土)～11月 7日(日)

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお問い合わせいたします。

受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日、改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



「カルメルの靈性に学ぶ」

～十字架の聖ヨハネの靈性～

- 1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ボスコ社）
（いつからでも参加できます。）

- 2) 日時：毎月一回 14：00～15：30
10月22日（金）第2部16章の6～17章
11月19日（金）第2部18章～19章
12月17日（金）第2部20章～21章

- 3) 講師：^{くのり}九里 彰神父（カルメル会）

- 4) 場所：カルメル会宇治修道院 信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel：0774(32)7456 Fax：0774(32)7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一日静修～(2010)

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

第9回	10月30日(土)	小さき道、幼いイエスの聖テレジア	Sr.バートリス (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(火) 祝日	主が教えてくださった新しい道の道、 『私が愛したように』	三上和久神父 (三馬修道院)

※第1回～8回終了

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話【1】
～(赦しの秘跡または面接)
 - 12:15～ 昼食
～(赦しの秘跡または面接)
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



「観想」を読む

2010 秋 No.338

● 目次 ●

馬屋の靈性 (7)	高橋重幸	2
「恵み溢れる聖マリア」		
カルメルの靈性の源流を探して (1)	中川博道	8
——その「会則」に見る生活		
三位一体のマリアの歌 (1)	ペトロ・アロイジオ	15
私は愛に渴いている		
「どこにお隠れになったのですか」 (5)	九里 彰	21
——十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路		
聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (4)	マリイ・エウジエンヌ	27
	編・訳 伊從信子	
エディット・シュタインの改宗までの道程		
ベアトリス・デクンハ		
「小さい道」の巡礼者 (10)	中山眞里	44
テレーズの修練者——三位一体のマリー		
僕たちを忘れないで	森 みさ	51
愛の断章 (17)	奥村一郎	57

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) できます。定価は、一冊 460 円です。

- 送付希望の方は、600 円【内訳 460 円 (+送料 140 円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費 (年 5 冊：春夏秋冬号・特集号【460×5=2300 円】、送料分【700 円】) として、3000 円を下記へお振込み下さい。

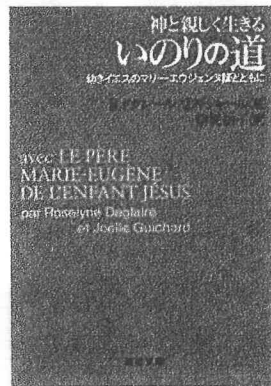
郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。)

TEL (03) 5706-8356

新刊紹介

●「テレーズを愛した人びと」

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェンヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。伊従信子著 ¥1400 円＋税 女子パウロ会 214 ページ



●「神と親しく生きる 祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに
本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェンヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ

送るメッセージ

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失って
いないだろうか・・・ 真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレール/J.ギシャール＝著

伊従信子＝訳 ¥525 聖母文庫 207 ページ

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

※ お知らせ

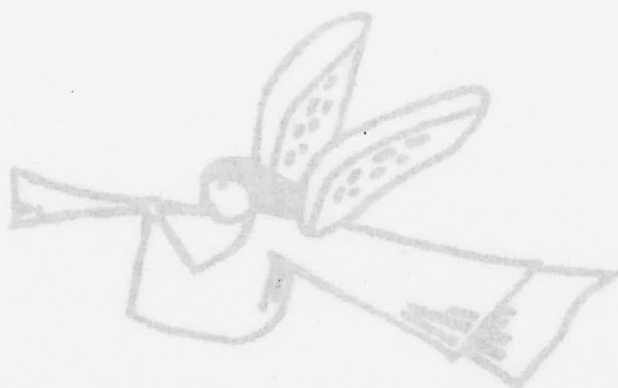
2009年・10号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。

内案画全の祈禱



心祈いの心

一多に才飛交卦靈山命真

聖書様トスレキ父特一ハ一てにサ一リ

トセ・ヲ・ムセハイ一ノ

会文藝協賛様ムセハイ一ノ

せら取読 ※

本専研画全の祈禱、心祈いの心・サ0000

。スノ若ねんさびてノ際業の用業業

、お祈禱、心をあつてノ願を業におこし

。ノちスノ会期にノ成り合ノ間答、心祈いの心

の成り合ノ間、お祈禱、心をあつてノ願を業におこし

。ノちスノ会期にノ成り合ノ間答、心祈いの心

。お祈禱、心をあつてノ願を業におこし

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

2010年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

- ★N4 10/02(土)-10/08(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- K4 10/14(木)-10/20(水) 東京・小金井・聖霊会
- ★N5 11/03(水)-11/09(火) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- F3 11/20(土)-11/26(金) 福岡・御受難会黙想の家
- K5 12/01(水)-12/07(火) 東京・小金井・聖霊会
- M4 12/10(金)-12/16(木) 兵庫・売布・女子ご受難会

2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

- M1 01/10(日)-01/22(土) 兵庫・売布・女子ご受難会
- K1 01/25(火)-01/31(月) 東京・小金井・聖霊会
- Y1 02/14(月)-02/20(日) 神戸・須磨・ヨハネ
- K2 03/04(金)-03/10(木) 東京・小金井・聖霊会
- M2 04/03(日)-04/09(土) 兵庫・売布・女子ご受難会
- ★N1 04/30(土)-05/06(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

通年テーマ：教父の祈りを学ぶ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

10月14日	聖ベネディクトゥス	フランコ神父
11月11日	大聖グレゴリウス	フランコ神父
12月 9日	ロマノ メロドス	Sr.マリア

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

（要予約）



リーゼンフーバー講座・集いの案内 2010~11年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見よ。

10月2日、9日、16日、11月6日、13日、27日、12月4日、11日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日～1月3日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

●坐禅接心

(秋川神冥窟) 一泊2,400円程度

10月29日(金)20時30分～11月3日(水)10時

(上石神井)

2011年2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分
5,900円程度

(宝塚)7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内クルトウルハイム1階
右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、
10月20日、12月29日、祝日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時

上智大学内SJハウス第5会議室

黙想、講話、ミサがあります。

10月9日、11月13日、12月11日、

2011年1月15日

ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

クルトウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。

(但し、祝日、10月19日、12月28日は

休。8月24日はクルトウルハイム聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時45分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂 但し、祝日休。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂。

どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

9月11日(土)10時～12日(日)15時、11月20日(土)10時～21日(日)

15時

上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と

集い、ミサ(14時～18時)、上智大学

内SJハウス第5会議室 10月16日

(土)、2011年1月22日(土)

●クリスマス会・ミサ 12月18日(土)

16時30分

聖イグナチオ教会マリア聖堂、18

時岐部ホール

4階 要申込。ミサ 12月23日(水)14時～クルトウルハイム聖堂(80人限定)

上智大学内クルトウルハイム聖堂(80人限定)

上述日程等、変更の可能性が
あります。
詳細等は、
下記、リーゼン
フーバー神父様
のホームページ
でご確認
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座2010年～2011年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座2010年～2011年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

イエス

- 10/01:人間としてのイエスー新しい人間像の基礎付け
- 10/08:御子としてのイエスーイエスの神との関係
- 10/15:父と子と聖霊ー神の生命に与る
- 10/22:休み
- 10/29:信仰の決断ー支えられて生きる
- 11/05:ミサ祭儀ー神への奉仕と生活の糧
- 11/12:自己実現と神の意志ー生き方の規範
- 11/19:人間の弱さー罪とは何か
- 11/26:恵みとゆるしー神の憐れみを受ける
- 12/03:愛の心ーキリスト教の本質
- 12/10:隣人愛ー他人の内にイエスに出会う
- 12/17:希望を持つ勇氣ー未来に向かって歩む

- 10/05:受難による救いーイエスの救済的役割
- 10/19:休み
- 11/02:休み
- 11/16:死からの命ー復活の認識・経験・理解
- 11/30:キリストはだれかーキリスト理解の発展
- 12/07:御子の受肉ー神の子と人の子

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124{直通}
-5111{伝言}

Fax 03-3238-5056

上述日程等、変更の可能性があります。
詳細等は、下記、リーゼンフーバー
神父様のホームページでご確認
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

10月9日(土)
※次々回の予定 11月20日(土)

★9月はお休みさせていただきます。

講話 伊従信子・片山はるひ
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

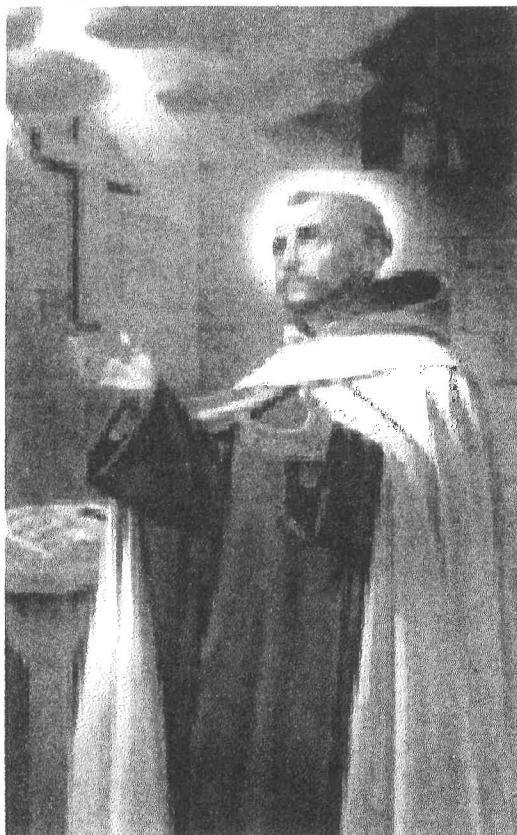
Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ(NEW)

<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

⑦ 10月 1日(金)～10月9日(土)

⑧ 11月 2日(火)～11月10日(水)

※①～⑥終了

B. 祈りの体験:週末3日間

(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

2010年

⑯ 10月 1日(金)～10月 3日(日)

⑰ 10月22日(金)～10月24日(日)

⑱ 11月 5日(金)～11月 7日(日)

⑲ 11月26日(金)～11月28日(日)

⑳ 12月10日(金)～12月12日(日)

(他の黙想会が行われている場合があります。)

※①～⑱終了。

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)
→終了致しました。

◎ 対象: 信徒、修道者、司祭、
洗礼を受けていない方、
どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者:

菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会)

松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)

その他 若干名

◎ 申込み:

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望
日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで
「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、
その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んで
ください。先着順11名です。

その他:

◎ 受付(チェック・イン): いずれの場合も、
初日の15時から16時45分まで。

◎ 問い合わせ: 電話 または、E-メールを
御利用下さい。

その他

グループでの黙想会や研修会のために
唐崎修道院をご利用なさりたい場合は
連絡下さい。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

神の恵みを生きる

キリストに引き寄せられる者

なぜこの人についていくのだろうか？ それはついていきたいから

2010年 召命黙想会

日時 **10月16日(土) 15:00~**

17日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：10月12日(火)までに

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1
ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com



STAB E. SALOMONE ROMA

teresa de jesus

Doctor Ecclesiae

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

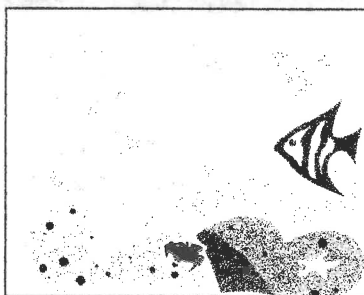
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

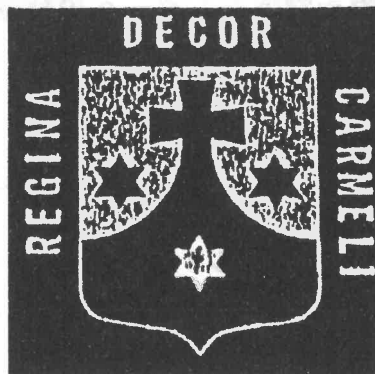
9月下旬になっても、真夏のような天気が続いている。先日、テレビで今年の異常気象の解説があった。原因は、赤道付近の海域の水温の異常な上昇と偏西風の蛇行ということであった。だが、それらがどうして生じているのかの説明はなかった。

電気や水道、冷蔵庫や洗濯機、テレビやエアコン、携帯やパソコン、自動車や飛行機など、現代生活において、不可欠とされる物が山ほどある。これらのものを作り出すために自然が破壊され、巨大なコンビナートが形成され、工業化が進んでいくのだとすれば、私たちはその歩みをどのように修正してゆくべきなのであろうか。

もはや単に人類の命を守るための環境保護、エコロジーでは足りない。今や動物植物無機物等、一切の存在を神からの賜物として受け取り、それらと神の心をもって関わり、丁寧に取り扱い、ゆくことが求められているのではないだろうか。

我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。(創2:26)

(P. 九里)



あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことができます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「11月号」製本日 10月26日（火） 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171